

令和7年度 自己評価表

中長期目標	技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたたくましい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。	今年度の重点目標	1. 学力の向上 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と進路実現 4. 学校業務改善への取り組み
-------	--	----------	--

評価基準 A：十分達成〔100%〕 B：概ね達成〔80%程度〕 C：変化の兆し〔60%程度〕 D：まだ不十分〔40%程度〕 E：目標・方策の見直し〔30%以下〕

評価項目	評価の具体項目	年 度 当 初			最終評価（1月）		
		現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 学力の向上	① 授業改革と学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で授業の工夫改善に努めている。「私は授業に満足している」とする生徒の割合が90% 授業でのICT活用が浸透しつつある。「ICT機器を活用した授業がよく行われている」とする生徒の割合が80% 授業等におけるSTEAMLabの活用や公開授業など、STEAM教育の実践に向けて取り組んでいる 基礎力診断テストの分析や現状把握に努めている 	<ul style="list-style-type: none"> 「私は授業に満足している」とする生徒の割合が90%以上を維持している 「ICT機器を活用した授業がよく行われている」とする生徒の割合が80%以上を維持している 鳥工版STEAM教育を通して、生徒が教科横断的・融合的によく学んでいる 基礎力診断テストの評価が向上している生徒が増加している 	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開等を通して、授業をより改善するための意見交換を各教科で継続する 教科会等を通して、ICT活用例を積極的に共有する STEAMLabを積極的に活用しながら、その成果を各教科で共有し、応用・実践する 基礎力診断テストの結果を教科会等で分析し、授業にフィードバックする 			
	② 主体的な学習態度と実践力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 授業の規律を随時周知している。「予鈴着席など規律ある態度で授業に臨んでいる」とする生徒の割合は92%である 知的好奇心を刺激する授業づくりに努めている。「意欲的に授業に臨んでいる」とする生徒の割合は87%である 面談を通じて日々の自宅学習に対する姿勢を確認している。R6.11月自宅学習時間調査では1日平均96分である（R5:99分、R4:117分、R3:100分、R2:80分） 資格・検定の案内とともに各科・各教科で合格に向けて補習指導を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> 「予鈴着席など規律ある態度で授業に臨んでいる」とする生徒の割合が90%以上を維持している 「意欲的に授業に臨んでいる」とする生徒の割合が85%以上を維持している 11月自宅学習時間調査が1日平均100分以上 多くの生徒が資格取得・検定合格に向けて努力している 	<ul style="list-style-type: none"> 「生活指導方針」に基づき、授業規律の周知・徹底を継続する STEAM教育を念頭において授業研究を継続する 担任・学年団等による面談をきめ細かく行い、学習意欲や進路意識を高める 資格・検定の情報を生徒に周知し、面談等を通じて取得を促す 			
2 豊かな人間性の育成	① 互いを尊重する態度と社会性の涵養	<ul style="list-style-type: none"> 面談、各種アンケート(ハイパー-QU・いじめ・生活振り返り等)、相談室・保健室等を通じて、生徒の悩み等を早期に把握し、速やかに対応している 人権教育LHR、性に関する指導LHR、5S・あさひの指導等を通じて、互いを尊重し合う意識を高め、「互いを尊重し合いながら学校生活を送っている」とする生徒の割合が90% 校内WEB掲示板等を通じて、人権教育関係研修会への積極的な参加を呼びかけ、参加者はその成果を様々な場面で指導に活かしている 	<ul style="list-style-type: none"> 悩み等を相談でき、一人一人が安心した学校生活を送っている 一人一人が人権の尊重された学校生活を送っている 日々の生活の中で人権問題に気づき、考えながら学校生活を送っている 	<ul style="list-style-type: none"> 面談、アンケート、相談室・保健室等を通じて、生徒の悩み等を早期に把握し、速やかに対応する 人権教育LHR、性に関する指導LHR、人間関係づくり研修、5S・あさひの指導等を実施し、互いを尊重する意識を高める 人権教育関係の研修会等に積極的に参加し、その成果を様々な場面で指導に活かす 			
	② 健全な心身と社会貢献精神の育成	<ul style="list-style-type: none"> 各種安全教室、朝の交通指導、5S・あさひの指導等を行い、「情報モラル、交通ルール・マナーを守るよう心がけている」とする生徒の割合が96.8% 9つの部活動・同好会の生徒が中国・全国大会へ出場している 年2回テクノボランティアを実施。桜ヶ丘グリーンゾーン活動へも参加している 2019年度比で1月末で可燃ゴミ排出量19.4%減、電力使用量3.5%増となっている 	<ul style="list-style-type: none"> 「情報モラル、交通ルール・マナーを守るよう心がけている」とする生徒の割合が90%以上を維持している 多くの生徒が部活動に熱心に取り組み、大会等で活躍している 社会貢献の意識が高まり、ボランティア活動等に積極的に参加している 環境改善の意識が高まり、可燃ゴミ量1人当たり排出量を2023年比1%減となっている 電力の使用について考えることができている 部室の5Sに取り組んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> 各種安全教室、朝の交通指導を行い、また5S・あさひについて積極的に指導する ホームページやInstagramを通じて、部活動の成果や成績を積極的に公開し意欲を促す 様々な機会を通じて社会貢献への意識を高め、ボランティアへの積極的な参加を呼びかける(クロームブック活用) 可燃ゴミ排出量について、毎月の達成状況を公開し、教職員や生徒への啓発を行う 目標の電力使用量削減は維持管理項目として情報公開を行う 月に一度は部室の5Sを徹底するよう、部員への啓発を行う 			
3 キャリア教育の充実と進路実現	① 専門的な知識・技術の習得	<ul style="list-style-type: none"> 企業見学は3学年とも実施している。鳥工版デュアルシステムは機械科・電気科で、インターンシップは第2学年で実施している 鳥工TECや課題研究発表会等において学習成果の発表・展示を行うなど、 一人一資格取得割合・検定合格割合は全体88.3%（3年95.6%、2年81.0%、1年85.7%） 第2期のスーパー工業士に4名の生徒が認定されている 	<ul style="list-style-type: none"> 専門的知識・技術に加え、社会人としての資質を身につけている 学習成果の発表・展示に向けて、生き生きと「ものづくり」に取り組んでいる 年間の一人一資格取得割合・検定合格割合が60%以上、かつ3年間での一人一資格取得割合・検定合格割合が90%程度を維持している 第3期のスーパー工業士に応募した生徒が、全員認定される。第4期生について、全ての科から認定者を輩出する 	<ul style="list-style-type: none"> 企業見学、鳥工版デュアルシステム、インターンシップ等を行う 鳥工TEC、津ノ井地区文化祭、とっとりものづくりフェスタ、課題研究発表会等において、学習成果の発表・展示を行う 資格・検定の取得に向けてきめ細かく指導を行う スーパー工業士の趣旨を説明し、第4期については全ての科から応募を募り、認定に向けて指導する 			
	② 勤労観・職業観の育成と進路指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 校外外と連携した進路指導・行事を実施し、「自らの進路に対する意識が高まっている」とする生徒の割合が89% 就職一次試験の合格率が97%、進学で第1希望の学校の合格率が60% 個々の進路実現に向けて、面接指導・受験対策等を実施し「生徒一人ひとりに適した、きめ細かな進路指導ができている」とする保護者の割合が72% ICT機器を活用した、進路学習、情報の提供、受験対策等が充実しつつある 	<ul style="list-style-type: none"> 各進路行事・進路指導を通して「自らの進路に対する意識が高まっている」とする生徒の割合が85%以上を維持している 就職一次試験の合格率が95%以上を維持し、進学では推薦制度等を活用し第1希望の学校の合格率が70%以上 「生徒一人ひとりに適した、きめ細かな進路指導ができている」とする保護者の割合が75%以上 ICT機器を効果的に活用し主体的な進路学習を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> 各事業所、外部機関等、校外外と連携・情報共有し、各進路行事を充実させる 基礎学力の定着、SPI・面接・小論文等、入試等、個々の進路目標達成に向けた学力の向上 進路行事や各種情報を生徒・保護者に周知し、進路相談に対して丁寧に対応する ICT機器を活用し、適切な進路情報提供、業務の効率化を推進する 			
	③ 地域や産業界との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> 分野別進路ガイダンスを実施し、地域の企業の取り組みや魅力についての理解を深めている。「将来、鳥工で学んだことを活かし、地域産業を支え、地域に貢献したい」とする生徒の割合が87% PTAだよりや玄関内大型モニターで本校の特色等をPRしている。「学校は、学校の様子や特色、学校行事等について積極的に情報発信している」とする保護者の割合が81% 	<ul style="list-style-type: none"> 地域に貢献する人材としての自覚をもっている。「将来、鳥工で学んだことを活かし、地域産業を支え、地域に貢献したい」とする生徒の割合が85%以上を維持 「学校は、学校の様子や特色、学校行事等について積極的に情報発信している」とする保護者の割合が80%以上を維持。津ノ井地域からも高い評価を得ている 	<ul style="list-style-type: none"> 進路ガイダンスの機会を進路選択に生かすよう、きめ細かな面談等を継続する ホームページおよびInstagramの充実 			
4 業務改善の取組	① 5SとQCストーリーの実践	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークフォルダの電子ファイルの整頓や、業務マニュアルの整備を推進している 教職員の各月時間外業務時間の確認と、負担軽減にむけて業務分担の平均化を進めている 部活動実施計画書に記載された時間を確認し、時間外業務削減のため月30時間を超える場合は調整を促している 校内掲示板による情報共有、Googleフォーム、マチコメール等を活用した生徒・保護者への情報提供やデータベースによる文書閲覧を進めて業務の効率化を図り、Googleフォームによる欠席連絡システムがほぼ定着している 	<ul style="list-style-type: none"> 分掌業務が円滑に引継がれ、また、特別活動や学校行事は業務マニュアル化されて、担当者が変わっても滞りなく業務が遂行できる 時間外業務が月45時間を超える職員が0名で、年間通じての時間外業務は、前年度より減少している 部活動の実施計画段階で、時間外業務が月30時間以内に抑えられている スケジューラや鳥工DB、マチコメール等で情報共有が活性化され、日常の業務の効率化が進められている 	<ul style="list-style-type: none"> 電子ファイルの整理・整頓や担当による業務マニュアルの作成・改善につとめ、一層の業務効率化を行う 勤怠管理システムへの入力をおとて、時間外業務削減への意識づけを一層進める 部活動実施計画書に記載された時間を確認し、時間外業務の削減につながるよう調整を進める 業務効率化を念頭において情報共有を積極的にに行い、会議時間の削減を進める 			

注) STEAM教育：科学(S)技術(T)工学(E)芸術・文学・歴史・経済など(A)数学(M)を融合させた学び 5S：整理・整頓・清掃・清潔・躰 あさひ：挨拶・作法・人の話を聴く テクノボランティア：学んだ専門技術を生かした地域へのボランティア活動
デュアルシステム：学校の授業と並行して企業で学習するシステム QC（品質管理）ストーリー：問題解決の手順